

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004 0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道博物館内
電話/011 898 0456・FAX/011 898 2657

道博協の動向 大会が終わりました！

第55回北海道博物館大会が終了しました

本年度の大会は、新ひだか町公民館を会場に7月7日(木)～7月8日(金)の日程で開催しました。大会テーマは「フィールドを活用した博物館活動」。1日目午前中は、総会と平成28年度北海道博物館協会表彰、次いで「国立アイヌ民族博物館」の展示計画について特別報告がありました。

午後からは、大会テーマに基づいた研究大会。基調講演は北海道教育大学岩見沢校の角美弥子准教授による「地域の特性を生かした博物館活動」。先生のご専門である無形の文化財を軸に、地域の文化資源と博物館との相互補完的とも言える関係についてお話くださり、博物館人として示唆に富む内容でした。続けてアポイ岳ジオパークセンター、新ひだか町博物館、洞爺湖町入江貝塚・高砂貝塚、日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリと、日胆地区の各博物館的施設におけるフィールドを活用した活動についての事例報告。会場からの質問を交えた総合討論へと進み、フィールドという地域ならではの資源を博物館としていかに活用し、教育普及・調査研究などの博物館における諸活動といかに結びつけるかについて、議論を深めました。

夜はお楽しみの懇親会、実行委員会のみなさんによる工夫を凝らした余興で、参加者一同大盛り上がりでした。

2日目はエクスカージョン。昨年度リニューアルオープンした新ひだか町博物館や、シベチャリチャシ跡、蓬萊山など、町内の文化・自然に関わる多様な地域資源を拝見。斉藤学芸員による軽妙なトークで、あっという間の4時間でした。

JR日高線が不通のままという交通事情が万全とは言えない状況下で113人もの参加者に恵まれたのは、ひとえに大会実行委員会による魅力的な企画によるところが大きいと感じました。新ひだか町博物館のスタッフをはじめ、日胆地区各地から集まった実行委員のみなさま、研究大会の発表者のみなさま、その

ほか大会成功に尽力された関係者のみなさまにあらためて御礼申し上げます。

JMMA 大会への参加費補助を行いました

本年度の道博協ミュージアム・マネージメント研修会は開催せず、札幌で開催される日本ミュージアム・マネージメント学会(JMMA)大会への参加をもってこれに代えるという方針となったのは、ニュース第116号でお知らせしたとおりです。

JMMA 第21回大会は、6月17日(金)～19日(日)の日程で北海道大学にて開催されました。道博協会員からは事務局で確認できた範囲で23名の参加があり、このうち該当する19名について参加費の補助を行いました。

例年のMM研修会と比較すると参加者数が伸びなかったのは、例年の研修会とは開催時期がずれている上、いずれの会員館園とも事業等で多忙な時期であるためと考えられます。しかしながら、参加された会員のみなさんにとっては、全国規模の大会に参加できるというのは滅多にない経験であり、全国レベルの状況に触れるいい機会となったものと思います。それぞれ、所属館での今後の博物館活動に活かし、道内博物館の活性化に役立つものになったのではないのでしょうか。

このような機会を与えてくださったJMMA事務局および北海道支部のみなさま、ありがとうございました。



第55回北海道博物館大会(研究大会)

(北海道博物館協会事務局長 水島末記)



よりよい展示のために ～「音声ガイド」導入と課題～

今年5月、日本地質学会は、47都道府県について、代表的な化石・岩石・鉱物を「県の石」として選定し、発表しました。北海道は、岩石が橄欖岩、鉱物が砂白金、そして化石がアンモナイト。アンモナイト化石の展示を主力とする当館としてもうれしい選定でした。また、昨年11月28日付の日本経済新聞「NIKKEIプラス1」で組まれた特集記事「何でもランキング・親子でへえ～1テーマ博物館」では、“子どもも大人も楽しめる”“1つのテーマに重点を置いたユニークな博物館”として、当館が関東以北地域第1位に選ばれました。アンモナイトの種類の豊富さや進化について詳しく解説し、化石を自由に触れる点を評価していただいたとのことです。

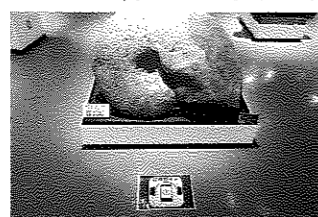
こうしたなか当館では、よりわかりやすく、親しみやすい展示を提供していきたいと考えています。

昨年度には、市の地域おこし協力隊員として着任された八所かおりさんの協力を得て、音声ガイドを試験的に導入しました。化石の展示室8箇所に、展示を解説する音声ガイドのスポットを設置しています。機材の貸し出しではなく、来館者が自身のスマートフォ

ンから博物館ウェブサイトへ接続し、音声ファイルを再生する方法にすることで、より気軽に利用していただけるよう配慮しました。

設置後のアンケートでは「良い取り組みだと思う」「分かりやすい解説だった」との意見をいただきましたが、課題も見えてきました。機材貸し出しは導入コストが高いため、来館者のスマホを利用する方法を選択しましたが、北海道のスマホ普及率は57.0%と、全国平均の64.2%を大きく下回って全国37位(平成26年度総務省調査)。また、利用にイヤホン・ヘッドホンが必要な当館の音声ガイドは、「誰もが使える」というには、まだまだ不足です。

最近では、スマホアプリを開発し、音声ガイドを含めた館内案内や多言語化に対応している博物館も増えています。当館にも、展示室内にiPadを用いた情報コーナーがあり、化石クイズや博物館イベントの告知などを行っていますが、これらとの統合も含め、今後の展示拡充に努めたいと思



音声ガイドのスポット

後の検討課題はまだたくさんあるように思います。各博物館の皆様からのご意見もぜひお聞きした上で、今後の展示拡充に努めたいと思

(三笠市立博物館 学芸員 唐沢與希)



道南の博物館が丸わかり ～博物館マップを作成しました～

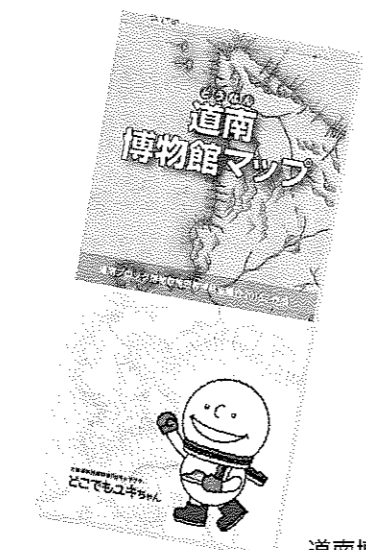
道南ブロック博物館施設等連絡協議会では3月に「道南博物館マップ」を作成しました。平成12年に発行して以来になります。

制作にあたって役員らで意見を出し合ううちに課題としてうかんできたのが「載せたいものが多い」ことでした。館の情報や周辺の史跡、自然景観…などなど、どの館もいろいろな情報を持っています。全て載せられればいいのですが、携帯性を損なわず(車の中で広げられる大きさをめどにしました)、可読性を高めるため文字も一定の大きさを維持しなければなりません。そこでシンプルに「各館にたどり着ける地図を」というコンセプトで作成することになりました。

スマートフォンの地図アプリやカーナビなどを使えば案内してくれますが、それらを使いこなせる人ばかりではありません。そういった人でも目的の館にたどり着くことができるように、館への経路や周辺の目印をしっかりと記載するようにしています。もちろん館への地図だけでなく、訪れた人が参考になるよう、各館イチオシの展示や周辺の施設なども掲載していま

す。紙を広げれば一面で様々な情報を一覧できる紙媒体の持つ特性を活かして、道南圏をまわる計画立てにも役立ててくれればと思います。

一方、載せきれなかった情報や各市町にある文化財の場所や情報は、ウェブに掲載することにしました。掲載できる情報量や検索のしやすさなど、ウェブならではの強みを活かします。こちらも現在公開されています(<http://donan-museums.jp>)。



道南博物館マップの表紙

(知内町郷土資料館 学芸員 竹田 聡)



道北地区博物館等 連絡協議会研修会報告

道北地区博物館等連絡協議会では、7月22日(金)、旭川市博物館郷土学習室にて研修会を開催しました。道北地区では年1回研修会を実施しており、今回は美幌博物館の町田善康学芸員に「美幌博物館のとりくみについて」というタイトルで講演していただきました。

「みなさんの街のお宝はなんですか?」という問いかけから話は始まりました。博物館はそれらを大事にする場所であるというところから、大事にすべきお宝として美幌川を例に挙げ、「手作り魚道」と「外来種の駆除活動」の川に関わる活動についてお話いただきました。

「手作り魚道」は、川に設置されている落差工について手作りの魚道を作ることで、魚の遡上を助け、魚が泳ぐ川を取り戻すという取り組みです。この活動を実行するにあたっては、地域住民の協力や理解、それらを取りまとめるリーダーの存在があったからこそという点は、その他様々な博物館活動においても、重要なものだと感じました。



日胆地区博物館等連絡協議会 「胆振・日高博物館MAP」作成

平成18年、日胆地区博物館等連絡協議会では、より多くの方々に博物館施設を訪れていただけるよう管内の博物館情報を記したマップ(A4判)を12万部印刷し、加盟館園や管内の主要な観光施設において配布しました。

しかし、作成から10年を経過しており、既に在庫はなく、情報も古くなっていることから今回新たなマップを製作しました。

レイアウトも大きく変わり、一面それぞれに胆振・日高地区の施設を紹介しております。所在地を示す地図と施設の外観写真、住所、電話、開館時間等を掲載しております。

新マップには、この10年間で新たに開館・加盟した「のぼりべつ文化交流館カント・レラ」(登別市)、「しらおいイオル事務所チキサン」(白老町)、「厚真町軽舞遺跡調査整理事務所」、「厚真町本郷遺跡調査整理事務所」、「アポイ岳ジオパークビジターセンター」(様似町)、「新ひだか町博物館」を加えております。

さらに今回は、加盟館以外の関係施設も網羅して

「外来種の駆除活動」は、特定外来種に指定されているウチダザリガニの防除についてです。ウチダザリガニはその繁殖力もあり道内各地で分布を広げ、在来のザリガニを含めて様々な影響を与える存在であり、各地の博物館でもそれぞれで防除活動が行われています。外来種に関わる活動は、その存在を地域の人に広く周知することも重要になりますが、美幌町では、捕獲した個体を肥料として活用する試みを行うことで、普及啓発につなげているそうです。

今回の研修を通じて、地域の歴史や文化、自然といった「まちのお宝」を「残す、調べる、伝える」というのが、博物館として大事な役割であるということを改めて考えさせる内容でした。



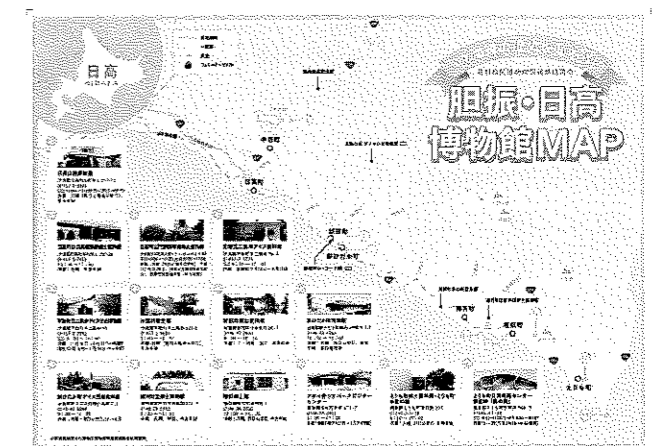
研修会の様子

(士別市立博物館 学芸員 本部哲矢)

おり、旧版に比べ17館増えて掲載されております。また、各館で増刷できるようPDF版も製作しました。

この秋から日胆地区の各館で手にすることができます。

日高路は、災害によって寸断された日高本線の復旧の目途も立たず、大変ご不便をおかけしているところですが、日胆地区をご旅行の際には、博物館探査のガイドとして是非ご活用ください。



胆振・日高博物館MAP

(新ひだか町博物館 館長 藪中剛司)



釧路市立博物館 創立80周年記念の取り組み

釧路市立博物館は2016年7月14日に創立80周年を迎えました。博物館では2014年4月からイメージポスターを展開し、80周年に向けて機運を高めてきました。そして今年度は企画展や関連講演会、創立記念日のイベントなど数多くの取り組みを行っています。その一部をご紹介します。

創立記念日である7月14日は、常設展示室入館を無料とし、特製の「くしろ濃縮100%」ポストカードブックを先着500名様に配布しました。夜には展示室でチェリスト原永里子さんの演奏による80周年記念ミュージアムコンサートを開催、釧路をイメージした原さんの新曲「クシロハナシ」も披露されました。また、マンモスホールのデコレーション、当館キャラクター「はっくん」をプリントした風船プレゼントも行ないました。

7月から9月には企画展「知られざる釧路湿原」を開催し、湿原に生きる動植物の中でもあまり知られていない生き物たちにスポットを当てて紹介しました。10月末から開催中の「釧路・根室の簡易軌道」では、釧路地区の開拓と農業を支えた小さな鉄道「簡易軌

道(殖民軌道)」について、関係者、関係自治体、鉄道愛好家の協力により、写真と資料で展示し、2017年2月以降は釧路空港や関係自治体にて巡回展を実施します。

また、博物館友の会の協力によりミュージアムグッズを拡充し、博物館にて販売しています。

その他に、2016年5月から2017年3月に開催する5つの企画展と11月の展示リニューアルの計6つの展示をめぐるスタンプラリーを開催中です。また、くしろバス(株)の協力により釧路の自然・歴史を紹介するポスターを車内に掲出、(株)リライアブルの協力によりコーチャンフォー釧路店に「学芸員の書棚」を設置しました。

今後の博物館にもどうぞご期待下さい。



80周年イメージポスター2016年6月版

(釧路市立博物館 学芸員 加藤ゆき恵)



平成28年度網走管内博物館 連絡協議会第1回研修会開催報告

網走管内博物館連絡協議会では、平成28年7月23日、北見市の北網圏北見文化センターを会場に研修会を開催しました。

内容は、同センターで開催中の美術企画展「描かれた女たち—画家はなぜ、女性を描くのか—」における講演会で、東京文化財研究所副所長の山梨絵美子氏より日本近代洋画が女性像と共に歩んできた美術の流れについて解説をいただきました。

明治以降、日本に西洋美術がもたらされたことは近代日本絵画の大きな転換点となりました。対象を科学的にとらえる見方や陰影法などの描法を学ぶことにより、写実表現は格段の進歩を遂げるようになります。

フランス留学でアカデミックな絵画教育を受けた黒田清輝は、西洋では絵画のモチーフとして裸体は基本であり、裸体を研究しないと日本の西洋画は発展しないとの信念のもと、裸体画の普及に尽力しました。そして、自らも西洋の理想的なプロポーションを日本人で表現した裸体画作品を発表しました。また、女性

の裸体をモチーフとしたデフォルメやフォルムの再構築など、作者独自の形作りを行う画家も現われ、女性像を取り巻く絵画の表現は幅を広げていきました。

女性像をフォルムとして表現するのではなく、画家とモデルの関係や描かれた状況を表した肖像画、女性像が描かれた時代や社会的背景を映し出す作品など、現実の人間の様々な有り様が描かれた女性像も数多く描かれています。

さらに、物語や季節を主題として女性像が盛り込まれた作品や、女性像を通して理想郷の情景を表現した作品なども描かれてきました。

女性を描いた絵画は実に多様性に富んでいることが分かり、日本近代洋画に対する理解がたいへん深まった研修会となりました。



講演中の山梨絵美子氏

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)



アフリカゾーンのオープン

本年8月22日に、円山動物園のアフリカゾーンが全面オープンしました。

アフリカゾーンは、建築後約50年を経過した熱帯動物館の建て替えを契機に建設され、キリン館、カバ・ライオン館の2つの建物と、その間のサバンナストリートから成っています。アフリカのサバンナと水辺に生息する動物たちを中心に展示し、「生命循環・食物連鎖や動物たちの共生」といった、いのちのつながりをテーマとして、これまでに熱帯動物館で展示していた動物達に加え、新たにミーアキャットとハダカデバネズミを導入し、計10種類の動物を飼育展示しています。

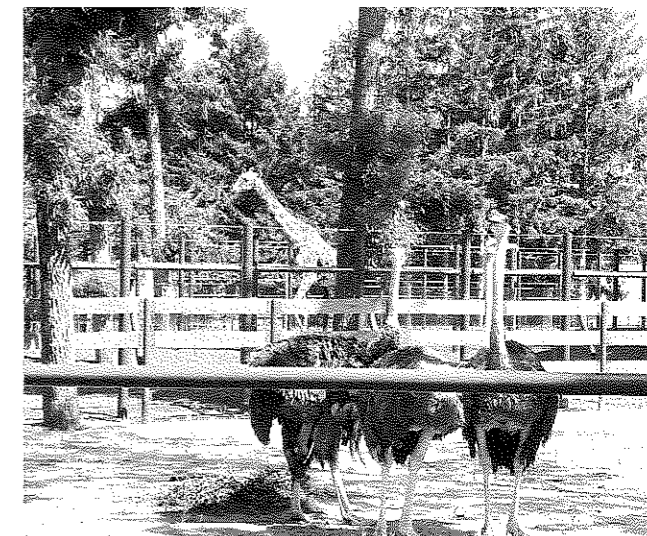
カバ用の大型プールでは、水中のダイナミックな泳ぎを見られるほか、サバンナストリートでは、キリンやダチョウ、エランドなど様々な動物をパノラマビューで見ることができます。また、来園者がゆっくり滞在できるようにレストスペースの充実も図りました。

動物の移動に際しては、国内最高齢のオスのマサイキリンをはじめとした大型動物達を安全に移動させるために、獣医師と飼育員が打ち合わせを重ね、実際

の移動檻を用いた移動シミュレーション等を実施しました。

オープン当日は残念ながら雨でしたが、オープニングセレモニーには多数の方にお越しいただき、秋元札幌市長、加藤動物園長、来園者の代表の方などによるテープカットを行いました。

ぜひ、アフリカゾーンにお越しいただき、「いのちのつながり」を体感してください。



サバンナストリートから見る動物達

(円山動物園 飼育展示課 飼育展示一担当係長 箕岡健輔)



部会 HP コラムリレーが1冊に！ 『北の学芸員 にとっておきの《お宝はなし》 ～北海道で残したいモノ、伝えたいコト』

2013～2014年に学芸員部会 HP「集まれ！北海道の学芸員」にて、51名の会員有志により週一回のペースで連載したコラムリレー第1弾が、学芸員部会設立40周年を記念して、寿郎社から1冊の本となって11月末に刊行されます。

部会 HP をご覧の方は承知のことと思いますが、この冊子の内容は地域の歴史や文化・風習、人物、生物や大地の痕跡など、実に多岐に亘り、話題満載です。広大な北海道の各地域、そして各専門分野で活躍する学芸員たちが、未来へ残したい、伝えたいと願う51編にのぼる《お宝はなし》が熱く紹介されています。

今や190名に上る会員を有する学芸員部会は多様性の宝庫。手前味噌かもしれませんが、この本には、私たち学芸員部会が有する「底力」、《多様な知と技術の結集》が現れていると思います。

さて本冊子のセールスポイントを2点挙げます。

①51編の多様な話題を盛り込んで1,500円/冊！

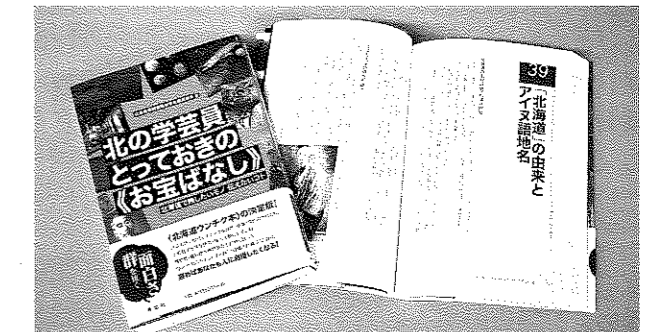
51編の話題を盛り込み、300頁を越えるのに、このお手頃な価格。部会取扱いの場合のみ、割引価格で1,500円です。ぜひお申し込みを！

②部会 HP よりも読みやすい？!

同じ話題はHPでも読めますが、文体の統一はもちろんのこと、出版社のプロの手により、言い回しや表現を少々あらため、とても読みやすい本に仕上がっています。気になる話題も、お手元があれば検索不要。

お申し込みは、富良野市博物館で取りまとめています。また各館園やミュージアムショップ等での取扱いも承っております。詳しくは、部会 HP ないしは Facebook でご確認ください。

最後に、冊子刊行にあたり、学芸員部会の大先輩であり、小樽市総合博物館元館長の土屋周三さんから、部会と私たち後輩の成長を期待して、多大なご支援をいただきました。この場を借りて、部会員一同より心から厚く御礼を申し上げます。



出来ました！

(富良野市博物館 学芸員 澤田 健)



北海道青少年科学館 連絡協議会活動報告

10月20日(木)、21日(金)の2日間の日程で、全国科学館連携協議会(以下、連携協という)北海道ブロック会議兼平成28年度第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議を釧路市こども遊学館で実施しました。

1日目は道内各地の科学館の28年度4月~8月の運営状況報告および、今年7月に日本科学未来館で行われた連携協幹事会・総会に関して、北海道ブロック加盟館への内容報告が行われました。

各館からの報告によれば、今年4月から8月までの来館者数・事業参加者数は、ほぼ昨年通り、もしくは昨年度よりもやや減といった館が多かったようです。来館者数・事業参加者数が伸びなかった要因の一つとして、今年の夏場は全般的に天候不順だったことが挙げられました。特に天文観望会など屋外での事業は、度々中止になるなど影響はかなり大きかったとのこと。また、昨年度までは毎年実施していた夏期特別展が、予算の関係で今年から周年事業化されることとなり、今年度は開催できなかったため、夏場の集客に非常に苦労した館の報告例もありました。



歌川国貞 《花鳥余情吾妻源氏》初公開

北海道立近代美術館では、江戸末期の浮世絵師・歌川国貞(三代豊国・1786~1864)の初期から晩年までの画業を紹介する企画展を開催する(2016年11月23日~12月18日)。当館所蔵品から約100点の逸品を厳選し、美人画を中心にした国貞の多彩な世界を鑑賞できる。

約500点に及ぶ当館の浮世絵コレクションは、浮世絵コレクターおよび研究者として著名な故・高橋博信氏の旧蔵品で、平成16年度にご遺族から寄贈を受けたもの。氏が心血を注いだそのコレクションは、保存状態もきわめて良好で、国貞をはじめ、歌川国芳、溪斎英泉ら各浮世絵師の揃物(シリーズ作品)も充実し、なかでも、斬新な構図で知られる国貞の《浄瑠璃づくし》全10点の完全セットは、世界でもここだけで、本展の見どころのひとつ。さらに「東海道五十三次」で有名な歌川広重との合筆作品や、広重の風景画を背景にした国貞の美人画など、二人の巨匠の夢のコラボレーションも愉しめる構成で、見どころ盛りだくさんである。

予算に関して言えば、どの館も厳しい財政状況には変わりはありませんが、そのような中、他団体と連携することで、多様な事業を展開した具体例もいくつか報告されました。例えば、日本極地研究振興会、国立極地研究所など多数の団体の協力を得て実現した稚内市青少年科学館の南極観測60周年記念事業や、岩見沢市郷土科学館と北海道教育大学岩見沢校との様々な事業協力など、興味深い事例報告がそれぞれありました。

連携協幹事会・総会の報告では、今後連携協加盟館を増やしていくための取り組みを強化していくことや、加盟館同士で相互に人材を派遣しあう「相互人材交流事業」に関して、今後の方向性などの説明がなされました。

2日目は施設見学と言うことで、今回の会場となった釧路市こども遊学館などを見学しました。

同館はガラス窓を大胆に取り入れた、明るく開放的な造りで、同館を代表する展示物の一つである1階の「すなば」を含め、参加体験型の展示物が多数設置されていました。当日もたくさんのお子様たちが館を訪れており、彼らの元気で楽しそうな様子と合わせて館内の展示物が実際に活用されている様子をそれぞれ視察することができました。

(札幌市青少年科学館 広報企画担当 伊藤淳一)

そして収蔵以来の初公開となるのが、国貞の知られざる傑作のひとつともいわれる春画《花鳥余情吾妻源氏》。彫りや刷りにも精緻華麗に粋を凝らした3冊組の艶本である。これも見どころ。ただ本作の性質上、その展示に際しては十分な配慮が必要なものである。不用意な観覧や不快と感じる人の観覧を避けることも必要であろう。そこで展示室の中にさらに本作のみの小展示室を設け、入口には性的表現を含む春画であることの表示と、18歳未満の観覧を遠慮いただく



歌川国貞《花鳥余情吾妻源氏》より

(北海道立近代美術館 学芸部長 地家光二)

旨の注意喚起を付すこととした。また、関係機関等にも、事前に展示趣旨と展示方法の説明も行っている。他府県の実験館での春画の展示例を参考にしながらの今回の展示であるが、ぜひご高覧願いたい。

館・園の主な展覧会と普及事業 (平成28年7月~10月)

石狩

- 北広島市エコミュージアムセンター 知新の駅(011-373-0188)
7/31 施設見学会「地域遺産発見バスツアー①(北海道博物館編)」
8/4 観察会「昆虫採集教室」
8/13~11/20 企画展「祝いと記念の品」
8/28 史跡見学会「地域遺産発見バスツアー②(大曲地区編)」
9/22 史跡見学会「地域遺産発見バスツアー③(西の里地区編)」
●北海道立近代美術館(011-644-6881)
7/2~11/8 近美コレクション「北海道美術紀行」...

後志

- 岩内郷土館(0135-62-8020)
5/22 DVD上映会「岩内フラッシュ」昭和50年代
6/7~7/18 第2回企画展「矢田晴一所有絵画展」山崎省三と佐藤栄次郎」
7/3 歴史講座「岩内発行新聞に見る戦前の岩内」
7/16 ピアノ演奏会(岩城美紀子先生)
7/21 歴史講座「岩内暮らし一年有余 おるしゃのことなど雑感少々」
7/28 歴史探訪ツアー「北海道大学博物館と植物園」
7/26~9/11 第3回企画展「岩内と戦争 part2『郷土たよりに見る戦時下の岩内』」
8/19 歴史探訪ツアー「伊達黄金塚遺跡・苫小牧・安平町」
9/3,10 DVD上映会 東映映画「飢餓海峡」
9/4 歴史講座「旧島野村水田誕生秘話」
9/17~11/20 第4回企画展「司法誕生140年記念『明治期の岩内の司法と行政』」
9/21 岩内歴史散策「プラコウジ」寺町通と岩内神社」
9/30 歴史探訪ツアー「二つの美術館と北海道警察見学」
10/1~毎土曜 DVD上映会「岩内ニュース」昭和40~60年代
10/6 特別講話「新型詐欺について」「交通安全について」(岩内警察署)

渡島

- 北海道立函館美術館(0138-56-6311)
6/18~8/7 特別展「開館30周年 画家の詩、詩人の絵」
7/3,7/24,8/2 読み聞かせ「詩とあそび!絵をうたお!」(函館絵本の会「銀のふね」)
7/30 マジカル・ワークショップ「ワックスボールの花を水に咲かせよう!」
8/6 特別展セミナー「詩と絵画のヒミツをさぐる」
8/21 美術講演会「蠣崎波響ー絵筆で松前藩を救った男」
8/21~10/2 特別展「開館30周年 ハコビ・グランドコレクション『道南の美術』セレクション」
8/28 二館ツアー「はこはく50年×ハコビ30年波響自慢・これがオススメ!」
9/22 講座「ハコビでアフタヌーンティー」
9/24 マジカル・ワークショップ「切って!貼って!描いて!~君だけの函館マップづくり~」
10/8 美術講演会「金子鷗亭の書の秘密」
10/8~12/11 特別展「開館30周年 生誕110年記念 金子鷗亭の世界」
10/29 ギャラリー・ツアー「書の見かた、再発見!」

胆振

- 室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)
8/1~10/2 企画展「懐かしの映画ポスター展」
10/23 とんてん館寺子屋教室「焼きいもと木製コースターづくり」体験学習会

上川

- 北海道立旭川美術館(0166-25-2577)
6/18~8/17 特別展「ひろしま美術館所蔵 フランス近代美術をめぐる旅」
8/26~10/16 特別展「歌麿とその時代 黄金期の浮世絵 美人画と役者絵」
10/27~12/18 特別展「球子のひみつー本画とスケッチで探る片岡球子の画業」
10/27 講演会「片岡球子ースケッチの日々」

●剣淵町資料館(0165-34-2121)

- 7/21~8/5 特別企画展「冬の鉄路～豪雪地帯で活躍した機関車」
- 士別市立博物館(0165-22-3320)
- 6/5~8/21 特別企画展「ハーフマラソン30周年～合宿の里しべつとま ちづくりにかけた人々～」
- 7/9 夜間開館「カルチャーナイト2016」
- 7/16 講座「土器づくり体験①形づくり」
- 7/23 「高山植物観察会」
- 7/30 講座「昆虫のみつけ方・みわけ方・しらべ方」
- 7/31 「昆虫バラタクソノミスト養成講座 Jr in 士別～昆虫のみつけ方・みわけ方・しらべ方講座～」
- 8/6 夜間開館「ナイトミュージアム～天文教室～」
- 8/11 講座「土器づくり体験①土器焼き」
- 9/7 「市民懇話会～スポーツ合宿の40年、ハーフマラソンの30年を振り返る」、講座「米づくり体験③稲刈り」
- 9/10 「秋の自然観察会」
- 9/11 講座「Jr.博物館クラブ③水辺の生き物探し」
- 9/18 講座「地質めぐり～白亜紀の士別」
- 9/24~10/23 特別企画展「萬壽 修(まんじゅおさむ)帰郷展」
- 9/25~11/27 特別企画展「士別が海だったころ～白亜紀の海とエゾ層群の動植物化石～」
- 10/8 講座「米づくり体験④脱穀」
- 10/15 講座「アイヌ文様の刺繍ワークショップ～文様で彩るコースター～」
- 10/22 講座「天塩川流域探訪～天塩川支流の近現代遺産」
- 10/30 講座「マンモス絶滅の謎」

網 走

●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

- 7/2 講座「大きな国ができるまで～ロシア・カナダの毛皮交易と北方先住民の歴史～」
- 7/16~10/16 第31回特別展「北からの文化の波～北海道の旧石器からオホーツク文化まで～」
- 7/16 講座「人類の進化と北方への進出 考古学の証拠から」
- 7/23 はくぶつかんクラブ「フェルトで作るゲル型小物入れ」
- 7/24 講座「オホーツク文化の骨角製品と展示解説」
- 7/30 はくぶつかんクラブ「土器づくり」
- 8/6 はくぶつかんクラブ「考古学入門シリーズ 縄文土器の文様づくり」
- 8/20 講座「北アメリカの先史文化の誕生と北海道の旧石器文化」
- 9/3 講習会「オホーツク文化のトナカイ彫刻を作る」
- 9/10 はくぶつかんクラブ「北方の植物で染め物作り」
- 9/17 講座「北海道博物館紀行「羅臼町郷土資料館」」
- 9/18 講座「ロシア・アムール地方の言語」
- 9/24 はくぶつかんクラブ「カラフル・ストロー作り」
- 9/25 講習会「フィンランドの伝統装飾品ピンメリ作り」
- 10/8 はくぶつかんクラブ「簡単カメラづくりと楽しい映像」
- 10/29 講習会「サラニブ(編み袋)づくり」
- 10/29~11/27 ロビー展「北で編まれるバスケット」

●北網走北見文化センター(0157-23-6742)

- 7/2~8/21 企画展示「描かれた女たち～画家はなぜ、女性を描くのか～」
- 7/10 「高原の自然観察会」
- 7/29、8/9 「夏休み自然体験教室」
- 8/5~2月上旬 企画展示「大昔の北見第32回 『新発見の遺跡紹介』」
- 9/18 「秋の自然観察会」

●とくろ遺跡の森(0152-54-3167)

- 8/27 体験教室「遺跡見学・発掘体験教室」

●紋別市立博物館(0158-23-4236)

- 7/9 番屋講座「七夕飾りを飾ろう！」
- 7/16~8/28 特別展「化石～太古のロマン」
- 7/17 特別展開連体験教室「アンモナイトのレプリカ(模型)作り」
- 7/24 特別展開連講演会「楽しい化石の世界 40億年、生命の繋がり」
- 7/28 子ども考古学体験「縄文土器作り体験」
- 8/4 子ども考古学体験「石器作り体験」
- 8/6 番屋講座「おり染めでうちわを作ろう！」
- 8/14 博物館講座「宮本和男昔語り 終戦時の樺太と稚内」
- 8/20 講演「第24回 環オホーツク海文化のつどい」
- 9/3 子ども考古学体験「火おこし体験」
- 9/10 番屋講座「ホタテ貝に絵を描こう！」
- 9/6~9/11 「生田孝子 和・モダンアート展～和みの空間～」
- 9/24~10/23 特別展「アートとの対話「オホーツクの草花 片桐由貴展」」
- 10/2 体験教室「ガラス玉を作ろう！」
- 10/9 アートとの対話「オホーツクの草花 片桐由貴展」ギャラリートーク、ワークショップ「植物の似顔絵を描いてみよう！」

10/15 番屋講座「凧を作って揚げよう」

●博物館 網走監獄(0125-45-2411)

- 4/29~9/29 企画展 重要文化財指定記念「和洋折衷の極み」展
- 7/2 友の会事業「二見ヶ岡殉難慰霊碑清掃活動」
- 7/9、10 友の会事業「友の会バスツアー」
- 7/24 農園体験ワークショップ③ 除草作業と土寄せ作業
- 7/30 夏休み体験講座「鳥の巣箱とプランター作り」
- 8/7 夏休み体験講座「凝灰岩でアート」、体験講座「七夕」
- 8/21 農園体験ワークショップ④ じゃがいもの収穫
- 9/15 体験講座「十五夜」
- 9/18、19 二見湖畔神社収穫祭
- 9/24 農園体験ワークショップ⑤ いなぎびの収穫
- 10/1~3/30 企画展「北海道の重要文化財建造物巡り」展
- 10/8 講演会「北海道の文化財建造物の魅力」
- 10/9 農園体験ワークショップ⑥ さつまいも収穫と窯で調理
- 10/30 体験講座 秋自然体験「凧を作り揚げよう」
- 網走市立郷土博物館(0152-43-3090)
- 8/2~9/30 企画展「大！骨展～網走の動物の骨格標本展」

十 勝

●北海道立帯広美術館(0155-22-6963)

- 7/6~8/21 巡回展「歌麿とその時代」
- 7/16 デモンストレーション「摺りの実演」
- 8/7 ワークショップ「ビジュツの世界でフシギ発見！」
- 9/1~10/13 所蔵品展「帯広美術館物語」
- 10/2、8 ギャラリートーク「スペシャル・ギャラリートーク」
- 10/22 講演会「美術館とコレクション」
- 10/22~11/27 巡回展「国立美術館・煌めく名作たち」

●帯広百年記念館(0155-24-5352)

- 7/3~7/31 ロビー展「荘田喜與志コレクションⅡ『昭和からの伝言』」
- 7/16 博物館講座「ものがたりの昆虫4」
- 8/6~9/26 特別企画展「昭和のしごと・くらし展」
- 8/6、11 体験教室「石器づくりに挑戦」
- 8/20 博物館講座「つながりの多様性」
- 8/28 郷土学習バス見学会「十勝平野の生い立ちを探る」
- 9/24 博物館講座「捨てられるモノ、捨てられないモノ」
- 10/3~11/3 ロビー展「十勝美術作家Ⅱ 中村俊白の世界」
- 10/8 郷土学習バス見学会「音更・土幌の歴史をたずねる」
- 10/22 博物館講座「アイヌ語で自然かんさつ」
- 10/28~11/14 企画展「アイヌ語で自然かんさつ展」

釧 路

●釧路市こども遊学館(0154-32-0122)

- 7/23~8/16 企画展「夏休みイベント『鉄道であそぼう！』」
- 7/24、8/7、9/4 太陽観測会「太陽の素顔を探れ！」
- 7/30、8/6、10/22 天体観測会「星空キャラバン」
- 9/17~9/19 企画展「宇宙の日イベント『宇宙人ラボ』」
- 10/8~10/10 企画展「遊びんピック『スポーツ王は君だ！』」

●北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)

- 7/17~9/4 企画展「漫画界のレジェンド 松本零士展 宇宙戦艦ヤマト・銀河鉄道999」
- 7/17 松本零士氏講演会・サイン会
- 7/21 出前講座「浮世絵入門～江戸っ子の楽しみ」
- 7/23~8/16 ワークショップ「夏のキッズ・アトリエ」
- 7/30 アートシネマ館「アメリカ交響楽」
- 8/9 ナイト・ミュージアム&七夕観望会
- 8/27 講座「理系×文系学芸員のギャラリー・ツアー」、アートシネマ館「キング・コング」
- 9/3 パフォーマンス・シアター2016「ポケット・サーカス」
- 9/10 特別フォーラム「今日に残る我が町の集治監 ～北海道集治監が私たちに残したもの」
- 9/10~11/9 企画展「郷(さと)さくら美術館所蔵 美しき花鳥風月 - 現代日本画名品展 -」
- 9/10~10/2 企画展「我が町のお宝展一標茶町から」
- 9/11、18、25、10/2 「我が町のお宝展一標茶町から 標茶町郷土館学芸員による展示解説」
- 9/15 ワークショップ「フォトコラージュにちょうせん!!」
- 9/17 「我が町のお宝展一標茶町から 標茶高校による活動紹介&乳製品販売会」
- 9/17、24、10/1、8、15、22、29 講座「美しき花鳥風月 ギャラリー・ツアー」
- 9/24 アートシネマ館「チップス先生さようなら」
- 10/21~11/9 企画展「森川ヒロシ彫刻展 記憶から心象へ」
- 10/28、29 レコード鑑賞へのお誘い

事務局からのお知らせ

今号のニュースは、本来なら6月には発行していなければならないのですが、事務局の不幸により大幅に遅れての発行となりました。深くお詫びします。